

令和6年度「伊勢市高校生議会」記録



伊勢市議会

■日時

令和6年8月7日（水）午後1時30分～午後4時10分

■出席者

（高校生）

1. 明野高等学校
1番 曾我裕眞議員、2番 太田美唯菜議員、3番 森下愛華議員
2. 宇治山田高等学校
4番 梅林莉子議員、5番 新宮希衣議員
3. 伊勢まなび高等学校
6番 岡田勇希議員、7番 北川美空議員
4. 皇學館高等学校
8番 石井比那太議員、9番 中山想偉議員、10番 森下隼太議員
5. 伊勢工業高等学校
11番 常保和志議員、12番 吉永虹議員
6. 伊勢高等学校
13番 中村旭輝議員、14番 宮崎湊士議員
7. 伊勢学園高等学校
15番 下歩実議員、16番 大田帆乃夏議員、17番 森下結愛議員
8. 宇治山田商業高等学校
18番 白木帆乃加議員、19番 山崎花菜議員
9. 英心高等学校
20番 永田媛仁議員、21番 鈴木菜々実議員、22番 山下寧音議員

議長役 常保和志議長（伊勢工業高等学校）、大田帆乃夏議長（伊勢学園高等学校）

（伊勢市議会議員）

岡田善行副議長、上村和生広報広聴検討分科会会長、品川幸久広報広聴検討分科会委員、野口佳子広報広聴検討分科会委員、野崎隆太広報広聴検討分科会委員、井村貴志広報広聴検討分科会委員、辻孝記総務政策委員会委員長、川口浩総務政策委員会副委員長、宮崎誠教育民生委員会委員長、楠木宏彦教育民生委員会副委員長、福井輝夫産業建設委員会委員長、北村勝議会運営委員会委員長、中村功議会運営委員会副委員長、宿典泰議員、西山則夫議員、吉井詩子議員、鈴木豊司議員、大西要一議員

（伊勢市長）

鈴木健一市長

■記録

開 会



◎野崎隆太広報広聴検討分科会委員

ただいまから、伊勢市高校生議会を開催いたします。

伊勢市高校生議会は議会のあり方調査特別委員会広報広聴検討分科会が中心となって企画・立案しました。私は、広報広聴検討分科会の野崎隆太でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日、急遽藤原議長が欠席となりましたので、主催者を代表し、岡田善行副議長より御挨拶を申し上げます。

副議長あいさつ



○岡田善行伊勢市議会副議長

皆様、こんにちは。伊勢市議会副議長の岡田でございます。令和6年度伊勢市高校生議会の開催にあたりまして、今年は市内9校、全ての高校から御参加いただきました。高校生議員の皆様を始め、御尽力いただきました各高等学校の関係者の皆様方、引率の先生方に、まず感謝を申し上げます。

伊勢市高校生議会は、皆様が政治に参画いただくことを目指し、主権者教育の一環として、日頃感じている市政に対する疑問点やこれからの伊勢市に望むことを議員となって御質問いただき、市政や議会への関心をより一層高めていただくことを目的に開催するものです。若者の政治離れが叫ばれておりますが、このようなかたちで積極的に参加をして

いただくことは、今後、高校生の皆様が人生を送っていく中で大変貴重な経験になると思っております。今日は、慣れない場所で緊張もされていると思いますが、肩の力を抜いて、若さあふれる元気な声を聞かせてほしいと思っております。

最後になりますが、伊勢市高校生議会が皆様にとって、そして、本市にとって有意義なものとなることを御祈念申し上げまして、主催者を代表して御挨拶とさせていただきます。今日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

◎野崎隆太広報広聴検討分科会委員

副議長、ありがとうございます。

続きまして、鈴木健一市長より御挨拶をいただきます。

市長あいさつ



○鈴木健一伊勢市長

皆さん、こんにちは。今日は、大変暑い中、この伊勢市高校生議会が開かれることを大変うれしく思っております。今回の開催にあたりまして、各学校の先生方にも御尽力をいただいたことに深く感謝を申し上げたいと思っております。

皆さん方の投票できる年齢が18歳以上となりまして、ますます皆さん方と政治、また行政ということが近づいてきたようにも感じております。特に申し上げたいのは、伊勢市役所と市議会というのは、地方自治法という法律の中でその内容のルールが決められております。その地方自治法のルールの上にあるのは、日本の憲法というものがルールにあります。その日本の憲法のルールの中に主権在民、国民に主権があるというふうに書かれておまして、それがこの日本の民主主義の根底のルールとなっております。そういった中で皆さんが主体的になって、皆さんが主人公になっている気持ちで、このまちを、またこの国をどういうふうにしていったらよいまちになるのか、よい国になるのかというのを考えていただくいいきっかけになると思っております。

ぜひ、今日は皆さん方の様々なテーマに沿って、御質問、また御提案もいただきたいと思いますので、我々もしっかりと受け止めて、一つでもそれが実現できるように努力をしまいたいと思っております。今日はどうぞ頑張ってください。

◎野崎隆太広報広聴検討分科会委員

市長、ありがとうございます。

続きまして、高校生議員の紹介に移ります。

議会事務局長より紹介をお願いいたします。

○杉原正基伊勢市議会事務局長

議会事務局長の杉原です。お手元の伊勢市高校生議会プログラムの席次表の議席番号順で、学校ごとに名前をお呼びしますので、1人ずつ返事をして、起立し、最後に全員で礼をして、着席してください。

始めに、明野高等学校、1番 曾我裕真議員、2番 太田美唯菜議員、3番 森下愛華議員。続きまして、宇治山田高等学校、4番 梅林莉子議員、5番 新宮希衣議員。続きまして、伊勢まなび高等学校、6番 岡田勇希議員、7番 北川美空議員。続きまして、皇學館高等学校、8番 石井比那太議員、9番 中山想偉議員、10番 森下隼太議員。続きまして、伊勢工業高等学校、11番 常保和志議員、12番 吉永虹議員。続きまして、伊勢高等学校、13番 中村旭輝議員、14番 宮崎湊士議員。続きまして、伊勢学園高等学校、15番 下歩実議員、16番 大田帆乃夏議員、17番 森下結愛議員。続きまして、宇治山田商業高等学校、18番 白木帆乃加議員、19番 山崎花菜議員。続きまして、英心高等学校、20番 永田媛仁議員、21番 鈴木菜々実議員、22番 山下寧音議員。以上で、高校生議員の紹介を終わります。

続きまして、参加議員の紹介に移ります。先ほど、御挨拶を申し上げました岡田副議長と進行を行っております広報広聴検討分科会の野崎委員以外の参加議員につきまして、順にお名前をお呼びしますので、その場で御起立をお願いいたします。

始めに、上村和生広報広聴検討分科会会長。続きまして、品川幸久広報広聴検討分科会委員。続きまして、野口佳子広報広聴検討分科会委員。続きまして、井村貴志広報広聴検討分科会委員。続きまして、辻孝記総務政策委員会委員長。続きまして、川口浩総務政策委員会副委員長。続きまして、宮崎誠教育民生委員会委員長。続きまして、楠木宏彦教育民生委員会副委員長。続きまして、福井輝夫産業建設委員会委員長。続きまして、北村勝議会運営委員会委員長。続きまして、中村功議会運営委員会副委員長。続きまして、宿典泰議員。続きまして、西山則夫議員。続きまして、吉井詩子議員。続きまして、鈴木豊司議員。続きまして、大西要一議員。

以上で、伊勢市議会の参加議員の紹介を終わります。

◎野崎隆太広報広聴検討分科会委員

ただいまから伊勢市高校生議会の議長は、伊勢工業高等学校の常保和志議長、伊勢学園高等学校の大田帆乃夏議長の順に務めていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、伊勢工業高等学校の常保和志議長、議長席にお着き願います。

各校の質問及び答弁



◎伊勢工業高等学校常保和志議長

伊勢工業高等学校の常保和志です。よろしくお願いいたします。

これより市政に対する質問を行います。

発言通告がありますので、順次許可することにいたします。

始めに、皇學館高等学校、8番 石井比那太議員、9番 中山想偉議員、10番 森下隼太議員。

皇學館高等学校

【観光客の増加に対応する危機管理のあり方について】



○皇學館高等学校

【8番 石井比那太議員、9番 中山想偉議員、10番 森下隼太議員】

皇學館高等学校より、観光客の増加に対応する危機管理のあり方について御質問します。今年の元日に発生した能登半島地震のニュースに衝撃を受ける反面、私たちはどこか他人事のように受け止めて過ごしてきました。しかし、3月末に高校で実施された避難訓練中に「あの日、あの地震がもし伊勢市で起きていたならどうなっていたのだろうか」と考えました。三重県のホームページを確認したところ、今年の三が日の伊勢市周辺施設の訪問客数は20万人を超えたようです。特に伊勢市は年末年始に全国から参拝客が集まる場所ですので、地元住民だけでなく、観光客の安全も確保するしくみはどのようになっているのか気になりました。

実際に、ゴールデンウィーク中に度会町に暮らす友人とおはらい町を観光しました。しばらくぶりに訪れたおはらい町は想像以上の人混みでとても驚きました。観光客の年齢層は様々で、意外に中学生や高校生だけのグループも多いなという印象を受けました。今年4月に調査された伊勢市観光客実態調査では、観光客の年齢は40歳台～60歳台が多いようですが、友人同士で来たという回答が一番多かったところに納得しました。

ここから私たちは、伊勢市内の観光エリアで特に訪問者の多そうな地域の自然災害時における避難所を確認しました。調べる際は、主に国土交通省のポータルサイト「重ねるハザードマップ」を利用しました。内宮周辺に関しては、県営陸上競技場が避難場所として分かりやすいと思いました。市外からやってくる観光客にも分かりやすく、緊急時の割にはスムーズな避難が考えられると思った一方、おはらい町周辺では、土石流特別警戒区域があったり外水氾濫の危険性があるので、道路や五十鈴川を渡る橋が寸断されたり、それに伴う怪我人などが出るのではないかと危惧しました。外宮エリアと夫婦岩周辺の避難場所としては、学校などが複数指定されていました。これも比較的観光客には分かりやすいと思いましたが、一時的に避難しようとする地元住民と観光客が殺到した時にどうなるのかというキャパシティに不安をもちました。

ここで、高校2年生の自然災害に対する危機管理意識を調べるために、同級生220名にデジタルによるアンケートを実施しました。アンケート内容とその結果を紹介します。

【資料①】設問1、能登半島地震後、自然災害が起こった時の対処について、家族で話し合いましたか。①避難場所を確認した19.41%、②災害時における家族の行動を確認した31.22%、③特に話し合っていない45.57%。【資料②】設問2、伊勢神宮（内宮・外宮）で災害が起きた際の避難経路や避難場所などを知っていますか。①知っている7.51%、②知らない92.49%。以上の結果から、自然災害に対する警戒意識は低くはないが、地元の人でも内宮・外宮で災害が起きた場合の避難方法を知らない人が多数いるということが分かりました。これは私たち伊勢市の高校生として自助の部分に課題があることを改めて実感するとともに、有事の際、観光客の方々を助けることも難しいのではないかと深刻に捉えました。

ここで、質問があります。災害時に観光客がこれを見れば分かるというような、分かりやすい避難対応・安全行動マニュアルはないでしょうか。伊勢市観光客実態調査では、伊勢市を訪れた人はリピーターが圧倒的に多いことが示されています。この特性を活かしてリピーターに周知されるような、他市にはない独自の観光客用のマニュアルがあれば、例えば修学旅行先などにも選ばれやすいと思うのですが、いかがでしょうか。また、伊勢志摩地域では、外国人観光客数を増やそうという取組を行っていますが、外国人観光客が有事の際に得たい情報などを分析した対応マニュアルなどは作成されているでしょうか。自然災害に巻き込まれた観光客や外国人に対してどのように対応してあげればいいのか、私たち高校生が学べる取組があれば教えてください。これで質問を終わります。

◎伊勢工業高等学校常保和志議長
産業建設委員会、北村委員。



●北村勝産業建設委員会委員

皇學館高等学校の皆さん、御質問ありがとうございます。伊勢市において発生が想定される災害の中で、最も大きな被害が想定されているものが南海トラフ地震です。南海トラフでは過去 1,400 年間に約 90～150 年の間隔で大地震が発生しております。1944 年の昭和東南海地震や 1946 年の昭和南海地震が発生してから約 80 年が経過しており、マグニチュード 8～9 クラスの地震の 30 年以内の発生確率が 2020 年 1 月 24 日時点では、70～80%とされるなど大地震発生の可能性が高まっております。地震の発生そのものを止めることはできないため、地震の影響が想定される地域では、被害の防止や軽減に取り組む必要があります。また、地震はいつどこにいる時に発生するか分かりません。皆さんが自宅で寝ている時に発生する場合もあれば、学校で授業を受けている時に発生するかもしれません。そして、観光の最中に地震が起こるかも分かりません。

観光とは、日常生活の場を離れ、非日常を経験することとされています。御指摘の通り、観光客は自力での避難は難しく、また、観光客全員に避難所の情報を伝えることは非常に困難となります。このため、観光客を受け入れる地域では、災害を想定し平常時から対策に取り組むことが重要となります。伊勢市におきましては、大規模な災害が発生した場合、内宮エリアなどで多くの観光客などの帰宅困難者の発生が想定されます。市内の観光地域はそれぞれ特性が異なるため、地域ごとに観光客の防災対策に取り組んでいただいております。民間施設や周辺地域、さらには民間団体・事業者などと連携して、行動計画や連携体制づくりを進めております。

取組の一部を御紹介させていただきます。特に多くの観光客が訪れる内宮エリアをモデル地区として、平成 21 年 7 月から平成 24 年 1 月にかけて、おはらい町通りの事業者などで構成されている団体である「伊勢おはらい町会議」と連携し、観光客災害避難マニュアルを作成し、取組などを実施しております。その後、おはらい町会議以外の店舗にも範囲を広げた「内宮エリア災害協力協議会」が発足され、平成 28 年には、市と災害時の応急生活物資供給に関する協定も締結しております。現在もおはらい町会議を中心に地域の関係者と連携して観光客災害避難マニュアルの見直しや観光客避難誘導訓練の実施、帰宅困難者の自主避難施設などの検討や観光客の帰宅困難者への物資供給を行うための防災倉庫建設に向けた検討会の開催などの取組を始めております。

また、二見エリアの観光客津波避難マップ・マニュアルの作成や、二見まちづくり協議会が主催する津波を想定した観光客の避難誘導訓練への参画など、他の観光エリアにおい

でも取組を進めております。

また、外国人観光客に特化した有事の際の対応マニュアルについては、まだ、作成には至っておりませんが、外国人が避難されることを想定した避難所運営訓練を毎年実施しているところがございます。

観光客や外国人への対応方法やそれらについて高校生が学べる取組についてですが、災害対策は自助、共助、公助の3つに分けられております。まずは、災害時の自助として自分自身の安全を確保する行動や、自分の命を守るための具体的な予防活動をお願いしております。これは、災害に備えて必要な物資を用意しておくこと、適切な避難行動をとること、災害情報を得る手段を確保しておくことが含まれます。まずは、自分自身ができる限りの対策を講じていただくことをお願いいたします。

最後に、今回の御質問に際し、実施されたアンケートの結果を興味深く拝見させていただきました。能登半島地震以降、避難場所や家族の行動を確認したという方が約50%いらっしゃるとのこと。こうして、他の地域で発生した災害に対して、我が事のように置き換えていただいて、自分ならどうするか考えておくことは非常に重要です。今後、第63回式年遷宮に向け、賑わいが増加していくと考えます。観光客の方々に安心して伊勢に訪れていただけるよう、今後も取組を進めてまいりたいと思います。

それでは、これをもちまして皇學館高校の皆さんからいただいた御質問に対しまして答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

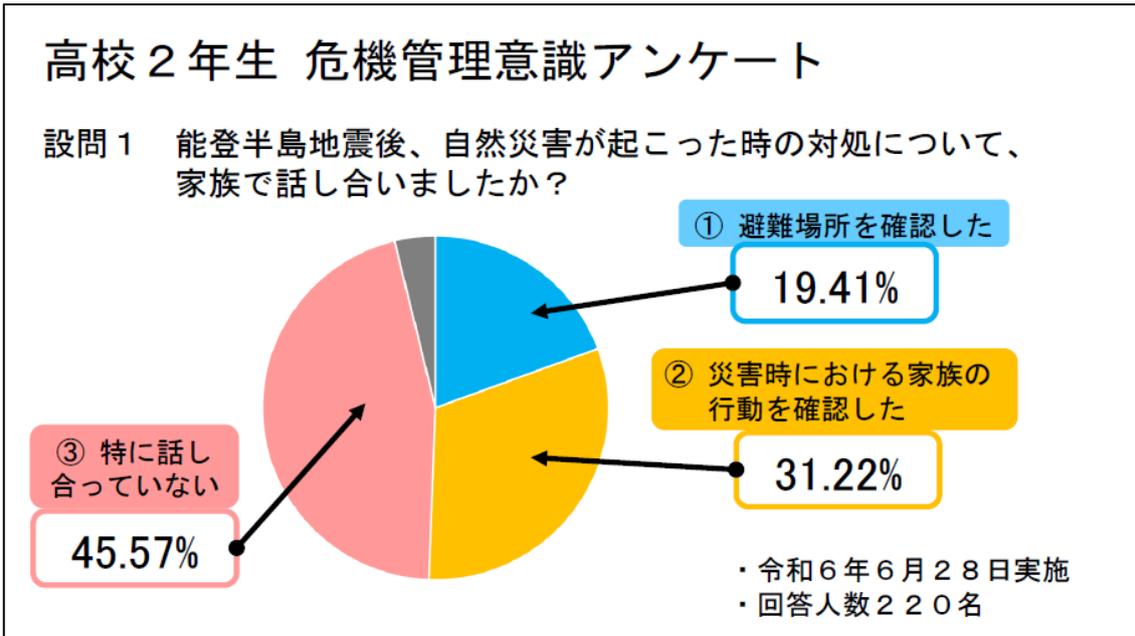
◎伊勢工業高等学校常保和志議長
皇學館高等学校。

○皇學館高等学校

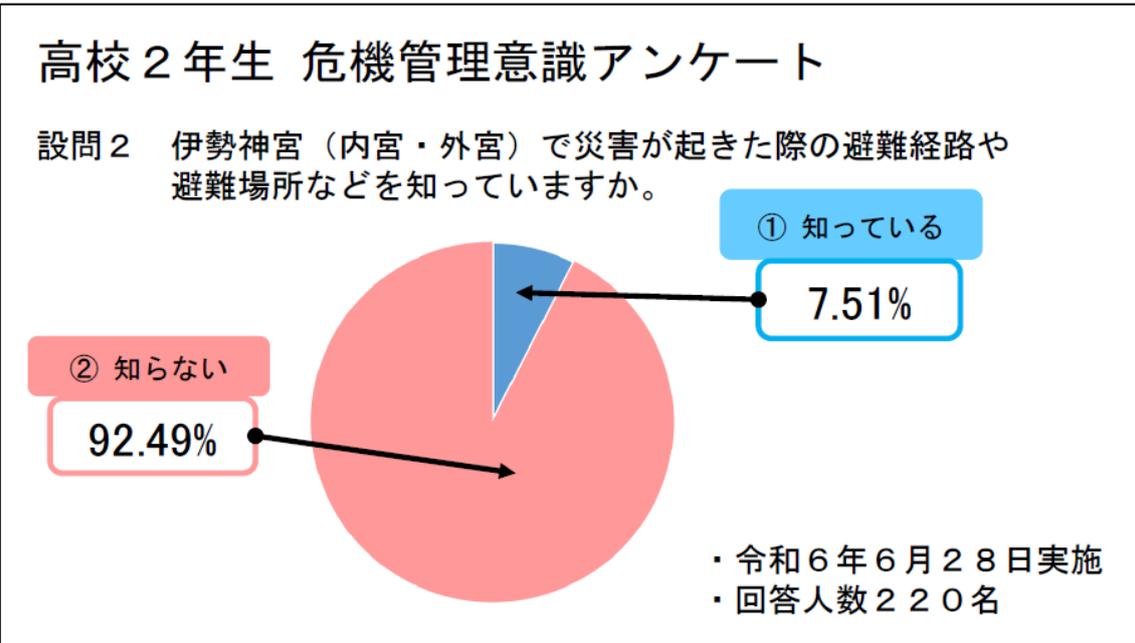
【8番 石井比那太議員、9番 中山想偉議員、10番 森下隼太議員】

御答弁ありがとうございました。観光地域の事業者などと連携して体制づくりを進め、避難マップやマニュアルの作成への取組を現在進めようとされていることが分かりました。伊勢市総合計画審議会の議事録でも、各地域での避難所を運営する際のマニュアル策定は難しいと書かれていたことを確認しました。私たち、高校の同級生220名に行ったアンケートでは、「観光客として、もし旅先で自然災害にあったら、何に困ると思うか」という記述式の質問もしました。必要であれば、その回答をまとめた報告書も提出させていただきますので、私たちも何かのお役に立てれば嬉しいと思います。ありがとうございました。

【資料①】



【資料②】



伊勢学園高等学校

【ICT教育について】

◎伊勢工業高等学校常保和志議長

次に、伊勢学園高等学校、15番 下歩実議員、16番 大田帆乃夏議員、17番 森下結愛議員。



○伊勢学園高等学校

【15番 下歩実議員、16番 大田帆乃夏議員、17番 森下結愛議員】

伊勢学園高等学校です。ICT教育について、御質問させていただきます。よろしくお願いいたします。伊勢市教育委員会の学力向上に向けた取組を拝見させていただきました。その中には、確かな学力と社会を形成する力の育成や令和5年度全国学力・学習状況調査の結果、学校質問紙・児童生徒質問紙の調査結果と分析結果が詳しくホームページに掲載されており、伊勢市内の学校や小学生・中学生の様子が分かりやすいと感じました。児童生徒質問紙の調査では、ICT機器の活用について「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思うか」という質問が挙がっておりました。

【資料①】まず画面を御覧ください。こちらはその質問結果になります。ICT機器が勉強に役立つと思うと答えた小学生は全国の割合を上回っていますが、中学生では全国の割合を下回っていることが分かりました。その中で高校でもICT教育を推進するにあたって、伊勢市内の高校に通う高校生はどのように思っているのか気になりました。

そこで高校でも学校質問紙・児童生徒質問紙による調査をしていただき、学習の中でICT機器を使うのは勉強に役立つと思う伊勢市内の高校生の割合を出していただけないでしょうか。また、今後勉強に役立つと思う生徒の割合を増やしていくために、現在伊勢市ではどのような取組を実施されているのか、その中での課題とその課題に対して今後どのようにしてICT教育を進めていくのかお考えがあれば御意見をお伺いしたいと思います。

◎伊勢工業高等学校常保和志議長

教育民生委員会、楠木副委員長。



●楠木宏彦教育民生委員会副委員長

それでは、伊勢学園高等学校の皆さんの御質問にお答えをいたします。始めに、学校質問紙・児童生徒質問紙による調査についてですが、文部科学省が全国の小中学生を対象に行っている調査のため、現状では高校生を対象に同じ調査を行った場合に全国と比較することはできません。伊勢市独自で小中学生を対象にICT機器の活用に関するアンケートを行っておりますので、御協力いただける高校様がございましたら、伊勢市の小・中・高で比較できるようなアンケートの検討は可能であると考えられます。

次に、ICT機器を使うことが勉強に役立つと思う生徒を増やすための取組についてですが、伊勢市では文部科学省GIGAスクール構想の下、ICT機器を活用し、一人一人にあった学びや、仲間と学び合うことで、深い学びができるような授業を行うとともに、子供たちにとってICT機器の活用が勉強に役立つという意識付けに取り組んでおります。具体的には、個人の理解度に合わせたドリル学習や、興味・関心を活かした調べ学習等を行うことで、個々にあった知識や技能の習得につながります。また、その学びを個人で終わらせるのではなく、学習支援ソフト等を活用して、仲間と様々な意見や考えを共有し、自分の考えを広げるとともに、問題解決に取り組むことで、学びを深めることを目指した授業を行っています。

最後に、課題とその課題に対する考えについてですが、授業の中でのICT活用は進んでおり、さらに子供たちが学力をつけることができるよう、家庭でのICT活用を進めることや、ICT機器、インターネットからの情報を正しく使う力をつけていくことが課題であると考えております。そのため、家庭でのICT活用については、ドリルソフト等の活用を進めており、また、ICT機器と情報を正しく使うための知識と活用方法を身に付けることができるよう、情報モラル講座を行っています。

以上で、伊勢学園高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。どうもありがとうございました。

◎伊勢工業高等学校常保和志議長
伊勢学園高等学校。

○伊勢学園高等学校

【15番 下歩実議員、16番 大田帆乃夏議員、17番 森下結愛議員】

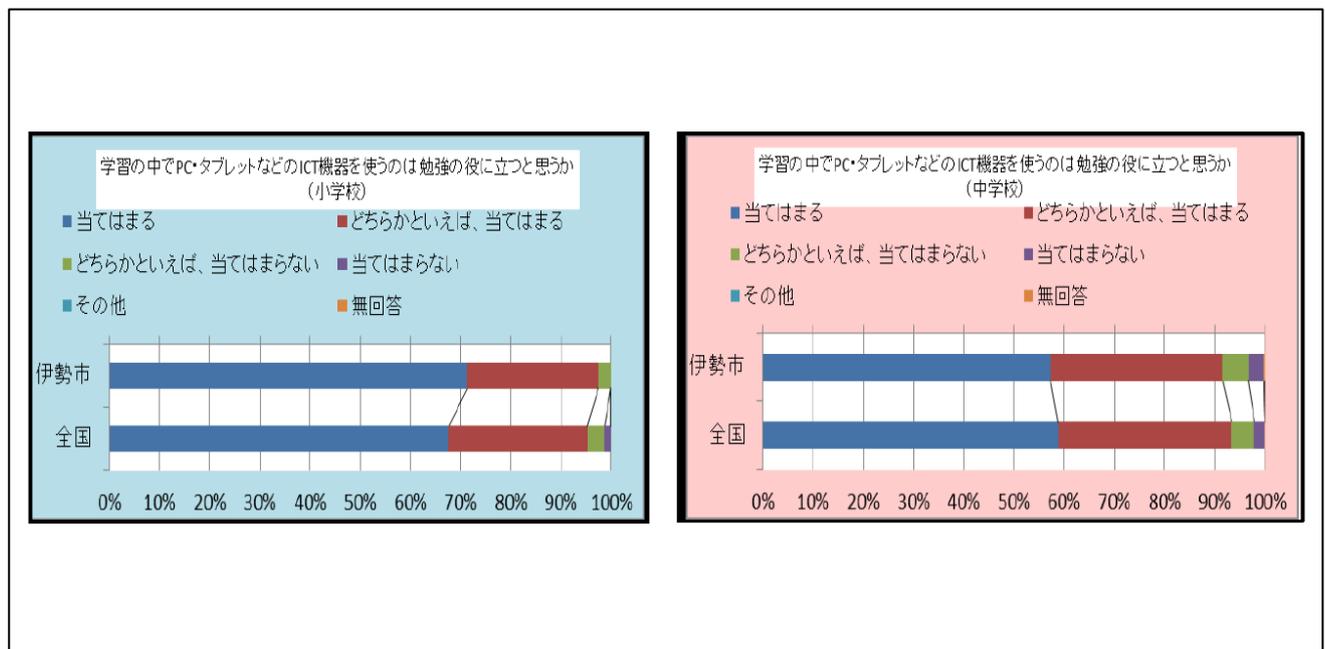
御答弁ありがとうございました。ぜひ、伊勢市の小・中・高校で比較できるアンケートの検討をお願いいたします。伊勢市ではドリル学習による知識・技能の習得のため、調べ学習による興味・関心につながる取組をされているのだとよく分かりました。

I C T機器を使用する際にカラーで見やすくなる半面、色覚の問題を抱える生徒もあり、授業などで使用する際は注意しなければならないと感じました。また、有害サイトの防止など生徒たちが使う I C T機器のセキュリティーをどこまでかけていくのかという点についても気になりました。

最後に I C T教育についてG I G Aスクール構想の下、行っておりますが、いろいろな課題があり、試行錯誤しながら進めていかなければならないものだと強く感じました。そして私立・公立に関わらず、伊勢市内の小・中・高校の教育活動の理想が現実になるように環境を整えていただくためにも、教育活動が良くなるよう、予算を今後も費やしていただきたいと思っております。

資料 伊勢学園高等学校パネル資料

【資料①】



◎伊勢工業高等学校常保和志議長

ただいまより、14時20分まで休憩とします。再開3分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

休憩 午後2時05分

再開 午後2時18分

- ◎伊勢工業高等学校常保和志議長
休憩前に引き続き、会議を再開いたします。
市政に対する質問を継続いたします。

宇治山田商業高等学校

【伊勢市の交通渋滞対策・駐車場の拡大について】

- ◎伊勢工業高等学校常保和志議長
次に、宇治山田商業高等学校、18番 白木帆乃加議員、19番 山崎花菜議員。



- 宇治山田商業高等学校
【18番 白木帆乃加議員、19番 山崎花菜議員】

伊勢市の交通渋滞対策・駐車場の拡大について、宇治山田商業高等学校です。この度はこのようなお時間をいただきありがとうございます。私達はそれぞれ異なる市と町で暮らしながら伊勢市の宇治山田商業高校に通っています。【資料①】そこで私達が暮らして感じて、伊勢市の交通に関する改善すべき点を挙げました。これらについて質問、改善の提案をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

まず、私達の身近な場所から具体例を挙げていきたいと思えます。【資料②】1つ目に二見街道入口の交差点、日産の交差点での問題点を挙げさせていただきます。この交差点では歩行者用信号機の赤から青への時間間隔が長いため、自転車の渋滞が起きており、近隣住民の方にも迷惑をかけているのが現状です。実際、宇治山田商業高等学校に入学してからも何度も自転車の渋滞を目にしています。その際、前の自転車と衝突している事故も起きています。通学として利用する学生が被害者・加害者になってしまうのは心苦しく思います。

そこで、私達が考えた改善案を2つ提案させていただきます。【資料③】まず改善案1つ目です。これらの問題を緩和するために、歩行者用信号機の切り替えを早くしてほしいと考えております。【資料④】現在の切り替え時間を調べてみると、青になってから点滅するまでが約20秒。点滅の時間が約5秒。点滅も合わせた青の時間が約25秒。点滅から次の青の時間まで約2分となっていました。それを1分半にして、この付近の信号機の回転率を上げてみてはいかがでしょうか。

【資料⑤】次に改善案2つ目です。二見街道入口の交差点、あしよろ前に【資料⑥】

歩行者用信号機のない横断歩道を追加してみてもいいでしょうか。このように分散させることで、自転車だけでなく車などの渋滞を緩和し、それによるトラブルを少なくすることができると思います。

【資料⑦】次に、市内観光スポットなどの駐車場対策について提案いたします。伊勢ダイムスタジアムの立体駐車場化、市の関連施設の駐車場立体化・開放を提案いたします。

【資料⑧】資料②を御覧ください。ダイムスタジアムの収容人数が 10,122 人に対し、駐車場の収容車数は約 300 台しかありません。そのため、【資料⑨】車でお越しになった利用客の方がぎゅーとらやザ・ビッグに車両を止めることがあり、ぎゅーとら様やザ・ビッグ様から苦情をもらっているそうです。【資料⑩】そこで、立体駐車場をダイムスタジアムの既存の駐車場に建設するのはどうでしょうか。なぜ、駐車場を拡大するといった策ではなく立体駐車場を提案したかといいますと、台風の際に懸念される洪水や南海トラフ地震が起こり津波が発生した際、ダイムスタジアム伊勢付近の安全を立体駐車場をすることで安全が確保できるからです。【資料⑪】伊勢市が出している津波浸水予測図を見て分かるようにダイムスタジアム伊勢は安全区域ですが、その周辺が危険なことが分かります。

【資料⑫】2～5 mが来ると予測されていますが、実際今までの過去の大地震では、これらの予測をはるかに上回る津波の大きさだったと言われています。もし危険区域の中に立体駐車場兼一時避難所を作るとは、避難をしようとしている人がそこに移動するまでに津波の被害に遭う可能性が出てきます。そこで危険区域に比較的近い安全区域のダイムスタジアム伊勢に立体駐車場を作ること、津波や洪水の被害者を少しでも減らすための策となると考えました。テントや非常食などの倉庫の役割にも使うことができます。また一時避難所としてだけではなく、もちろん一般的な駐車場としての役割も果たします。もし、建設され駐車場が充実すれば、プロ野球などダイムスタジアム伊勢で試合やイベントを開催しようと考えてくださるのではないのでしょうか。また、そういったイベントが伊勢で行われることは、地域の活性化にも繋がりますし、観客の方々が伊勢市での観光もプラスアルファで楽しんでもらい、伊勢市としても観光における経済効果が見込めるのではないのでしょうか。伊勢の有名な観光地である伊勢神宮の内宮・外宮にも近いため、徒歩約7分にある松尾観音のバス停から伊勢市中の観光地を回ってもらえるよう、伊勢市の観光サイトで紹介してもらえれば、バス会社にも、そして伊勢全体にも、また経済効果が見込まれると思います。

【資料⑬】また、いせトピアや市役所などの市の駐車場を、立体駐車場化したり、土日祝日に観光客などに30分200円程度で利用可能にしてはいかがでしょうか。【資料⑭】立体駐車場に関しては、費用の少ない自走式のフラットタイプを提案いたします。御回答よろしく申し上げます。

◎伊勢工業高等学校常保和志議長
産業建設委員会、福井委員長。



●福井輝夫産業建設委員会委員長

宇治山田商業高等学校の皆さん、御質問をいただき、ありがとうございます。まず最初に、生活に関わるエリアでの交通渋滞・駐車場についての質問にお答えいたします。改善案1つ目の二見街道入口交差点の歩行者信号機の切り替えを早くすること、改善案2つ目のあしよろ前、二見街道入口交差点への横断歩道の追加については、管轄が三重県警察となりますので、伊勢警察署に確認をいたしました。

まず、改善案1つ目につきましては、試行的に夏休み前に各信号機の秒数調整を行い、その結果を見て、9月以降に各信号機の秒数の最適化を図ることを検討しています。次に、改善案2つ目につきましては、現在設置されている二見街道入口交差点の横断歩道と今の横断歩道との距離が非常に近いことから、設置基準によりまして、横断歩道の追加は困難となりますとの回答でございました。また、中期的な考えとして、御指摘の交差点は、道路管理者と交差点改良などの対策を検討していく必要がありますが、その多くが自転車通学者であることなど、交差点の形状以外の要因が重なっており、根本的な解消には、通学路の分散化、始業時間の分散化、通学方法の複数化などの対策を図る必要がありますとの意見をいただきました。今後も伊勢警察署と連携しながら、交通渋滞対策に取り組んでまいりたいと思います。

次に、市内観光スポットなどの駐車場対策についてですが、ダイムスタジアム伊勢につきましては、都市公園法に定められた都市公園、倉田山公園内に位置しており、大規模な大会が開催される際には、公園内の駐車場のみでは不足する場合があります、立体駐車場化も検討の一つであると考えられます。ただし、都市公園である倉田山公園内での立体駐車場の建設にあたっては、関係法令に基づく建築面積に一定の制限があること、また、国有地であることから建設に至るまで関係機関との協議が必要であり、慎重に検討しなければならないと考えております。現在、ダイムスタジアム伊勢で大規模な大会が開催される際には、近隣の公共施設、いせトピアや学校の駐車場を一部借用し、臨時駐車場として対応しております。また、過去に開催されましたプロ野球オープン戦では、県営サンアリーナからシャトルバス運行を行い対応しております。なお、倉田山公園は防災拠点に位置付けられており、災害時の復旧・復興拠点および津波緊急避難所としての役割を引き続き担うこととなります。その他、市内観光スポットなどの駐車場対策については、交通渋滞緩和を図るため、メディア等を通じて公共交通機関の利用を呼び掛けるほか、車でお越しになる場合は、周辺の臨時駐車場の御利用を案内しております。また、市役所の駐車場につき

ましては、現在、土日祝日においては、無料で開放しておるところでございます。

最後に、いせトピアなど公共施設の駐車場の立体化や有料化については、現時点では考えておりませんが、市全体の交通渋滞対策に沿って対応していきたいと考えております。市内駐車場対策について、様々な御意見をいただきました。今後の参考とさせていただきます。

以上で、宇治山田商業高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎伊勢工業高等学校常保和志議長

宇治山田商業高等学校。

○宇治山田商業高等学校

【18番 白木帆乃加議員、19番 山崎花菜議員】

御回答ありがとうございます。信号機の件につきましては、多くの高等学校が近隣にあることや日々私たちが身をもって体験している危険だという気持ちを考え、警察の方と協力しながら信号機の時間を見直すという事を検討していただき嬉しく思います。また、横断歩道を増やすという案を提案させていただきましたが、御回答していただいたように、そのようなことは基準により難しいということが分かりました。

立体駐車場の件につきましては、法律関係で難しいということを今回知ることができて良い経験になりました。最後になりますが、私たちの調べ不足や知識不足なところがあったにもかかわらず、詳細に分かりやすく御回答していただき、本当にありがとうございます。

【資料①】

伊勢市の交通渋滞対策 駐車場の拡大について

1. 市内観光スポットなどでおきている
交通渋滞・駐車場について
 2. 生活に関わるエリアでの
交通渋滞・駐車場について
- 宇治山田商業高等学校

【資料②】

1. 生活に関わるエリアでの
交通渋滞・駐車場について

二見街道入口の交差点

【資料③】

自分たちが考えた改善案①

信号機のタイミング
(回転率) 改善

→朝の混み合う時間帯のみ

【資料④】



【資料⑤】

自分たちが考えた改善案②

歩行者用信号機のない
横断歩道の追加

【資料⑥】



【資料⑦】

2. 市内観光スポットなどでおきている
交通渋滞・駐車場について

【提案】

- ①伊勢球場の駐車場を立体化
- ②市の関連施設（伊勢トピアなど）
の駐車場を立体化・開放

【資料⑧】

資料②

【現状】

- ・駐車場の収容車数が収容人数に比べて少ない
収容人数：10,122人
収容車数：約300台
- ➡球場利用客の方がぎゅーとら様、ザ・ビッグ様の駐車場に停めるようになり苦情が度々ある。

【資料⑨】

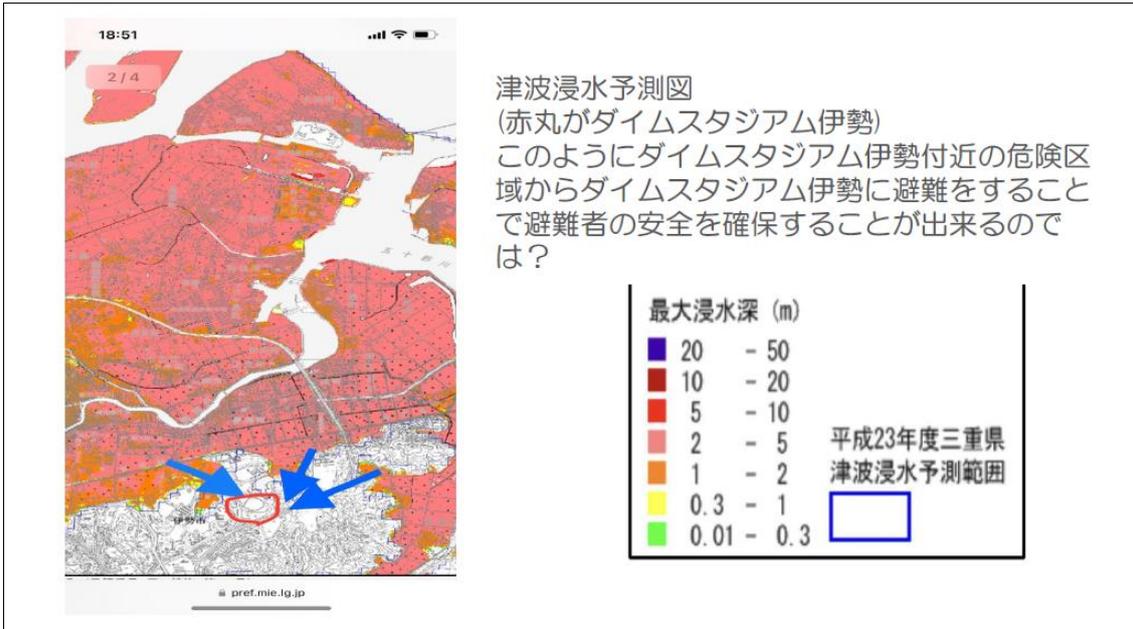


【資料⑩】

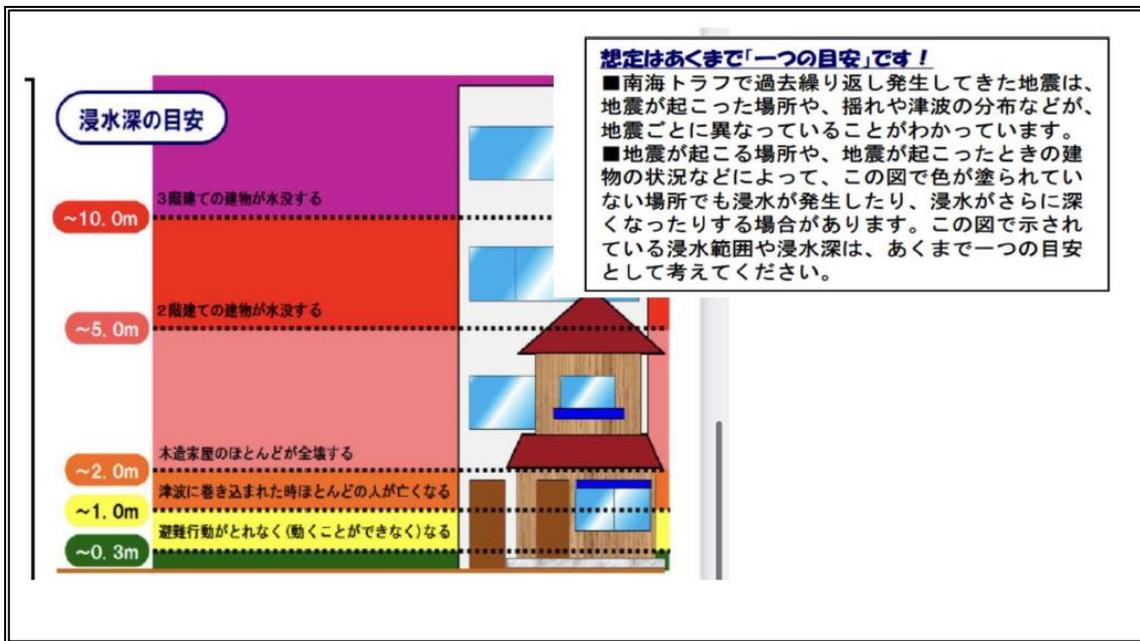
【建設した際のメリット】

- 駐車場が充実
 - ➡観光客の増加＋地域の活性化
- 津波や洪水の際に一時避難所として活用可能
 - ➡周辺地域の**住民の安全**を確保

【資料⑪】



【資料⑫】



【資料⑬】



【資料⑭】

**自走式
駐車場**

目的の階まで自走して駐車する方式です。各階をつなぐスロープ(通路)の方式によって、フラットタイプ・スキップタイプ・連続傾床タイプの3種類に分けられます。
敷地を最大限に利用するプランニングが可能で、大規模駐車場にも対応が可能です。

3D rendering of a multi-story self-driving parking garage with a ramp system connecting the floors.

伊勢まなび高等学校

【交通不便地域における登下校時の公共交通対策について】

◎伊勢工業高等学校常保和志議長

次に、伊勢まなび高等学校、6番 岡田勇希議員、7番 北川美空議員。



○伊勢まなび高等学校

【6番 岡田勇希議員、7番 北川美空議員】

交通不便地域における登下校時の公共交通対策について、伊勢まなび高等学校です。この度は、このような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。今回、私たちは、伊勢市の交通不便地域における登下校時の公共交通対策について御質問させていただきま。交通不便地域とは、鉄道駅や路線バスの停留所といった公共交通機関の発着場所から一定以上の距離のある地域を示しています。このような地域では、おかげバスデマンド、沼木バスなどのコミュニティバスが運行されており、交通の支えとなっています。しかし、伊勢市地域公共交通網形成計画によると、コミュニティバスの利用者は、65歳以上の高齢者が約70%であり、10歳代が2.8%となっています。利用目的別においても、通学時の利用が最も少なく2.2%に留まっています。高校生が通学を含め、コミュニティバスを利用しにくい理由として、「登下校の時間に合わず利用しづらい」、「コミュニティバスの存在を知らない」などの理由が考えられます。

1つ目の「登下校の時間に合わず利用しづらい」ですが、運行本数が少なかったり、運行時刻が合わないといった状況があります。例えば、高校への通学におけるおかげバスデマンドの御菌中学校前を利用する場合、第1便が8時32分なので、いずれの高校でも始業時間には間に合いません。さらに、三重交通バスを利用する場合は、御菌中学校前から最寄りのバス停まで20分以上歩く必要があります。また、いずれの最終便の時間も早く、夜間部においては下校時にバスに間に合わなくなってしまいます。そこで、コミュニティバスの運行について、登下校でどのように工夫を行っているかお聞きしたいです。

2つ目の「コミュニティバスの存在を知らない」について、私の学校でも何人かに聞いてみたところ、存在を知らなかったという生徒は一定数いました。私たち10代の利用が増えれば、バスの運行本数が増えるのではないかと思うので、通学以外でもコミュニティバスを利用する高校生が増えるといいと思います。そこで10代へのコミュニティバスの周知として、どのような取組を行っているかお聞きしたいです。

加えて、私のように車いすを利用している人は、バスを利用することが難しいことがあります。現在おかげバスでは、ノンステップバスと従来のバスの両方が走っており、ノンステップバスを選ぶことができません。それで、体の不自由な人がノンステップバスを利用しやすくなるような取組として、どのようなものを行っているか不思議になりました。以上です。質問を終わります。

◎伊勢工業高等学校常保和志議長
産業建設委員会、福井輝夫委員長。



●福井輝夫産業建設委員会委員長

伊勢まなび高校の皆さん、御質問をいただき、ありがとうございます。交通不便地域における登下校時の公共交通対策について、お答えします。

御質問1つ目の「登下校の時間が合わず利用しづらい」との御指摘になりますが、現在、高校生の登下校時のバス利用につきましては、伊勢市駅や宇治山田駅、あるいは志摩方面から三重交通の路線バスが運行しているため、そちらを利用されている方が大半となっております。

おかげバスにおきましては、実際にバスに乗ろうとしている人数や目的により、運行方法やダイヤ、経路などを考慮し運行されております。交通空白地である北浜地域から運行する「東大淀・明野・小俣線」は、近鉄明野駅などへの利用、二見地域を運行する「二見線」は、宇治山田商業高校や伊勢学園、皇學館高校などへの通学利用などを考慮して運行されておりますが、御質問の御菌中学校周辺からのおかげバス「御菌線」に関しましては、特に通学時間帯は、伊勢赤十字病院などへの通院利用者が多いことから、通院に適したダイヤで運行されております。

また、同様に、タクシー車両により予約制で運行するおかげバスデマンドにおきましても、あくまでも通院・買い物利用を想定した運行内容になっております。今回御質問をいただきました登下校時の利用を目的としたダイヤへの見直しにつきましては、利用実態により、再度検討をさせていただきます。しかしながら、すべての方の移動ニーズに対応しきれない面がございますので、何卒御理解いただきますようお願いいたします。

御質問2つ目は、「コミュニティバスを知らない」との御指摘になりますが、御指摘のとおり、特に若い世代の皆さんへの周知がまだ不十分であると認識しております。これまでは、広報いせや全戸配布している総合時刻表など、紙媒体での周知がメインでしたが、今

後は、SNSなどを利用した広報にも注力し、幅広い年代の皆さんにコミュニティバスを利用していただけるよう周知をしていきたいと考えております。なお、この7月12日より、伊勢市の公式LINEアカウントから「公共交通案内」のメニューが利用できるようになりました。バスの時刻表や乗り継ぎなどを簡単に調べることができます。また、高校生の皆さんにも利用しやすいよう、GoogleマップやYahoo!路線情報などの検索サイトでもダイヤを検索できるようになっておりますので、ぜひ試してみてください。

ここからはお願いとなりますが、伊勢まなび高校の皆さんで、おかげバスの周知や利用促進の企画を御検討いただきたいと思います。昨年、令和5年は、二十歳のつどい実行委員会の皆さんにおかげバスの利用促進企画を行っていただきました。若い世代の皆さんの視点で、より多くの方におかげバスを利用してもらえるようなアイデアや企画がありましたら、ぜひ、伊勢市及び伊勢市議会にお寄せください。

最後におかげバスは、予備車両を含め、現在9台の車両で運行しております。9台中5台がノンステップバス、ノンステップバスというのは、皆さんよく御存知かと思いますが、出入口の段差をなくして、乗降性を高めた低床のバスのことですね、5台がノンステップバス、3台が車いすでも乗車可能なリフト付きバスとなっております。車両入替時には、ノンステップバスの導入が進められておりますので、何卒御理解いただきますようお願いいたします。

以上で、伊勢まなび高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎伊勢工業高等学校常保和志議長

伊勢まなび高等学校。

○伊勢まなび高等学校

【6番 岡田勇希議員、7番 北川美空議員】

御回答いただきありがとうございました。おかげバスの周知や利用促進のため、今考えられていることとしては、学校の教室や廊下などにおかげバスの時刻表を掲示すること、また、伊勢市の公式LINEからバスの時刻表などが簡単に調べられることも知りませんでしたので、SNSを活用してもっと多くの高校生に周知できると良いと思います。引き続き、学校でも検討させていただきたいと思います。

今後、私たちももっとコミュニティバスを利用して、実際に気づいたことを要望し続けますので、誰にとってもコミュニティバスを利用しやすい伊勢市になるよう、よろしくお願いします。

本日はこのような場を与えていただき、伊勢市の日頃の公共交通対策における様々な取組や住みやすい街づくりに御尽力いただいていることを知る貴重な機会となりました。お忙しい中、ありがとうございました。

◎伊勢工業高等学校常保和志議長

ただいまより、15時まで休憩とします。再開3分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

休憩 午後 2 時49分

再開 午後 2 時59分



◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

伊勢学園高等学校の大田帆乃夏です。よろしくお願いいたします。

市政に対する質問を継続いたします。

宇治山田高等学校

【市政に対する市民の意見の反映について】

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

次に、宇治山田高等学校、4番 梅林莉子議員、5番 新宮希衣議員。



○宇治山田高等学校

【4番 梅林莉子議員、5番 新宮希衣議員】

宇治山田高等学校です。本日はこのような貴重な機会をいただきありがとうございます。市政に対する市民の意見の反映について2点お伺いいたします。1点目は「市民アンケート」についてです。現在伊勢市では、市民の意識や日常生活等における活動を把握し、今

後の市政に反映させていくための基礎資料とすることを目的として、「市民アンケート」が実施されています。アンケートは公式LINEなどでも実施され、集計結果等もホームページ等を通じて我々市民も閲覧することが可能です。しかし、ホームページではその集計結果がどの程度市政に反映されているかということを知ることはできません。そこで、この「市民アンケート」がどのように市政に反映されているかということをお尋ねします。また、このアンケートは企画調整課からのアンケートということですが、集計結果や意見が我々市民の代表者である議員の方々にもどのように情報提供されているのでしょうか。

2点目は「市長との地域懇談会」についてです。アンケートだけでなく、伊勢市には令和2年まで「市長との地域懇談会」という、伊勢市長と直接懇談をすることにより市民の生の声を届ける機会がありました。ホームページの記録から、令和2年度までの参加人数等を考察いたしますと、懇談会には市民の1%以下の参加しかなく、さらに、年々参加人数が減っていることが分かりました。特に、令和元年度及び令和2年度実施の懇談会には、年齢別参加人数の記録がございませんでしたので分かりませんが、記録にございました平成25年度、26年度及び平成28年度実施の懇談会では、10代20代の参加が著しく少なく、若者の市政参加率の低さが目立ちます。その原因は何だとお考えでしょうか。今後の市政を担う若者の市政参加への意識の向上に向けて、どのような対策がなされているのでしょうか。また、その懇談会も令和2年以降開催されておりませんが、もしコロナウイルスが理由であるのであれば、コロナウイルスが5類となり、落ち着いてきたと思われる今、再開の予定はあるのでしょうか。以上について答弁をお願いいたします。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長
総務政策委員会、鈴木委員。



●鈴木豊司総務政策委員会委員

宇治山田高等学校の皆さん、御質問ありがとうございます。まず始めに、「市民アンケート」について、お答え申し上げます。「市民アンケート」は、市民の皆さんの意識や日常生活等における活動を把握するための手段の一つとして実施しております。市民の皆さんの意識等の把握につきましては、この「市民アンケート」だけでなく、子育てや教育などの特定の分野において実施をいたしますアンケート調査や窓口等に寄せられる市民の声、また、国勢調査などの統計調査結果など、様々な機会・方法により、行っているところでございます。

「市民アンケート」の結果の活用につきましては、他の手段で得られる情報と合わせ、分析を行いながら、市の総合計画をはじめとしました様々な計画を策定する際や事業を立案するための基礎資料として、また、事業の成果が出ているか否かを評価する際の判断材料として活用されております。

次に、議員への情報提供についてでございます。「市民アンケート」の調査結果につきましては、集計結果等を見やすく加工された資料が私達議員に提供されており、その資料につきましては、市民の皆様にも御高覧いただけるよう、ホームページへの掲載とともに、LINEでの周知なども行われているところであります。また、「市民アンケート」の結果の一部につきましては、市の計画の目標指標としているものでもあり、それにつきましては、議会の常任委員会等の会議におきまして説明がなされ、意見交換などを行っているものもございます。市民アンケートの結果は、市民の皆様にも御協力いただきました大切な資料であります。私ども議会におきましても、市政の方向性等についてしっかり議論し、行政のチェック役としての役割を担っていきたいと考えておりますので、御理解いただきたいと思います。

次に、「市長との地域懇談会」につきまして、お答えを申し上げます。「市長との地域懇談会」は、市内の各地域の課題等を聞き取り、市政運営に反映することを目的として、開催されています。伊勢市では、市民が自ら地域課題を解決し、地域の特性を活かして自立的にまちづくりを行い、より豊かで住みやすいまちづくりを実現するため、ふるさと未来づくりという地域自治の制度を進めております。市内全域には23のまちづくり協議会が設置され、最も生活に身近な活動を行っている人たちや、地域の様々な団体が集まりまして、地域課題を話し合い、解決に向けた活動を行っております。「市長との地域懇談会」は、それぞれの地域の問題を深く理解し、地域の声を直接聞き取ることを目的に、まちづくり協議会の協力を得て、各地域で開催しており、令和6年度には、4年ぶりに6月から順次開催されております。しかし、主に参加しているのは、まちづくり協議会の役員などでございます。御指摘のとおり、若者の参加は少ない状況でございます。今、多くの地域活動で人材不足が問題になっておりますので、若者の積極的な参画を呼び掛けることは急務となっております。まちづくり協議会と協力・連携しながら、若者の地域活動への参画を促進していきたいと考えます。

なお、人口減少・少子化が進む中であって、若者が暮らしやすい地域をつくることが重要な課題となっております。また、令和5年4月に施行されましたこども基本法においては、子供施策に対する子供等の意見の反映が規定をされております。子供・若者の声を聴くこと、また、市政に参画いただくことの重要性は高まってきております。そのための取組として、本日の高校生議会も一つですし、主権者教育事業への協力、また、高校生がまちづくり体験をする高校生いせミライプロジェクトの実施など、市政や地域、まちづくりと関わります、考える、体験する機会の創出に取り組んでいきたいと考えております。

以上、御説明申し上げます。何卒御理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長
宇治山田高等学校。

○宇治山田高等学校

【4番 梅林莉子議員、5番 新宮希衣議員】

答弁ありがとうございました。「市民アンケート」について、具体的な活用方法や、どのように議員の方々に伝わり、市政へ反映しているのかということがよく分かりました。また、その結果が私たち市民も閲覧可能ということですので、きちんと日々確認していきます。次に、「市長との地域懇談会」とそれに加えた地域自治の制度等についてですが、懇談会は4年ぶりに順次開催されているという答弁をいただきました。また、若者の参加の少なさへの対策としてのプロジェクト等を知ることができました。私たちも伊勢市高校生議会のような機会を利用させていただき、しっかりと市政へ参加していきます。

最後に、私たちが実際に質問を考えたり、答弁をいただいたりすることで、私たちがいかに伊勢市について知らなかったのかということを知ることができました。これからもっと様々な機会を利用して、市政へ参加していこうと思いました。ありがとうございました。

伊勢工業高等学校

【わくわくする伝統ある伊勢市について】

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

次に、伊勢工業高等学校、11番 常保和志議員、12番 吉永虹議員。



○伊勢工業高等学校

【11番 常保和志議員、12番 吉永虹議員】

私達が通う伊勢工業高校は、創立 120 年を超える学校で、古くから伊勢市の伝統やものづくりの歴史に関わってきました。そこで伊勢工業高校の僕たちからの提案は、郷土文化や伝統の継承が伊勢市民が行事に対し、胸が弾むことが多くなるという伊勢市の活性化につながるというものです。

私達は郷土文化や伝統の継承の人材不足に注目しました。伊勢市では古くからの遷宮行事があります。たとえば 20 年に一度行われる御木曳やお白石持です。現在は知識を持った方が高齢化し、その上若者の参加が少なくなったことで、継承者が不足しています。その結果、行事の担い手が少なくなっています。その事があってか、その他の伊勢まつり

などの伝統的な行事も縮小されています。私の小さい頃の記憶では河崎の天王祭や船江の船江祭りなどの町内の祭りできえ、沢山の人がいって盛り上がり、お祭りの日は朝からわくわくしたのを覚えています。しかしコロナ禍を経て、祭りの中止や内容の変更を余儀なくされました。その後も元に戻っておらず寂しく思います。ぜひ、自分の子供にもこのわくわく感を体験してほしいです。

理想としては遷宮行事や祭りが地域の力で次の世代に継承され、結果、より地域が人で賑わうなど活性化され、伊勢市全体が活性化されると思います。そのために私達は3つのことを提案します。

まず1つ目に「見ること」です。特に学生に広告をして、授業を通して映像などで見たり、祭りを実際に見に行ってみてもらいます。そうして友達や家族の中でも話題になれば、自然と行事に対して触れる機会が増えます。遷宮行事や祭りを知らない方に実際に見てもらって興味を持ってもらうことが大事だと思います。

2つ目は、「体験してもらうこと」です。特に遷宮行事は神嘗祭などで体験する、または体験用キッドなどを準備して、それ以外の日でも体験をできるようにすることで、20年に一度の遷宮行事も引き継がれていくと思います。この案が皆さんの同意を得られたときには、体験用キッドなどの作成を我々伊勢工業高校がお手伝いさせていただきたいと思っています。

3つ目は、「実行すること」です。実際に遷宮行事や祭りに参加し、伊勢市の本当の伝統に触れてもらうことが大事だと思います。しかし、各行事にはお金もかかります。そのため、観光客や伊勢市出身でこの地を離れた方に参加していただき、参加料をいただきます。よって、伊勢市で設置していた伊勢市民俗伝統行事継承基金の負担を減らすことができ、行事のこれまで以上の長期的運用ができると思います。以上の内容が私達伊勢工業高校の提案です。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長
総務政策委員会、西山委員。



●西山則夫総務政策委員会委員

伊勢工業高等学校の皆さん、この度は、貴重な郷土文化や伝統の継承のための御提案をいただきまして、誠にありがとうございました。答弁に入ります前に、共通して課題と

して言われていますのは、やっぱり人材不足。これからの若手、それから今、地元に残っている人たちの祭りや伝統芸能に参加する人数が減ってきておりまして、先ほどの自治会の話もありましたが、これも極めて人材不足と言わざるを得ません。そういった意味で、ぜひ皆さん方がこれから、ハードルは少し高いかも分かりませんが、ぜひ祭りや伝統行事に参加をしていただくことを、私も心からお願いしたいと思っております。

さて、3つの御提案に対しまして、お答えを申し上げます。まず、1つ目の御提案、「見ること」につきましては、地元にどのような行事があり、受け継がれているかを知ることが第一歩であると思っております。大切なスタンスであると認識しておりますし、伝統芸能の映像に関しては、市のホームページにいくつかの動画があり、伝統行事に関する情報も市ホームページの観光情報や民俗文化財の項目に掲載されておりますので、映像を御活用の上、ぜひ実際に足を運んで御覧いただければと思います。また、市では令和7年度内の開館を目指し、郷土資料館の整備を進めております。民俗行事に関する学習の場として活用できるものと期待をしております。

次に、2つ目の「体験すること」につきましては、初穂曳を想定した御提案であると推察をいたします。初穂曳は伊勢神宮奉仕会が主催し、曳き手が各町々や地元の大学から参加しておりますが、今年は新たに小学生も地域の伝統を学ぶ学校行事として参加する機会があると聞いております。次世代を担う若者や子供たちが参加しやすく、文化の継承につながるよう、行政とともに議会も支援をしております。この初穂曳には、議会からも議員が参加をして、ともに行動しておりますけれども、やっぱりこういったところへも我々議員が参加をしながら、そして地域の皆さんとも交流を深めながら、伝統行事を深めていくということの取組をこれからも続けてまいりますので、御理解をいただきたいと存じます。

最後に、3つ目の「実行すること」につきましては、様々な保存団体が担い手不足に陥っている現状において、外部から参加を認める行事も存在しております。当然、行事の実施には経費も必要となり、その財源確保も課題となっておりますが、市が行っております無形民俗文化財等への保存継承の補助の他にも、民間助成や内容によってはクラウドファンディングの活用などの手法も考えられます。行事の継続には、それぞれの保存団体が固有に抱える課題がありますので、そうした課題の把握に努め、行政とともに議会も寄り添える方法を今後も考えてまいります。

以上で、伊勢工業高等学校の皆さんへの貴重な御提言に対しましての答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

伊勢工業高等学校。

○伊勢工業高等学校

【11番 常保和志議員、12番 吉永虹議員】

質問にお答えいただき、ありがとうございます。新しく、多くの方が伊勢市の文化に触れる機会が増えるような企画を考えていただいているということで、とても嬉しいです。我々高校生は、お祭りや行事に参加することはできますが、運営に細かく携わることはで

きません。

ですが、伊勢市の行事や文化を愛する想いはとてもあり、この想いを実際に携わっている方に話せることができたことをすごく嬉しく思います。ぜひ、機会があるのならば、お手伝いさせていただきたいと思います。今まで以上の伊勢市の発展を心から願っています。改めて今回伊勢市議会の参加の機会を用意していただき、ありがとうございました。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

ただいまより、15時35分まで休憩とします。再開3分前にブザーが鳴りますので、ブザーが鳴りましたら、自席までお戻りください。

休憩 午後3時21分

再開 午後3時33分

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

市政に対する質問を継続いたします。

英心高等学校

【子育て支援について】

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

次に、英心高等学校、20番 永田媛仁議員、21番 鈴木菜々実議員、22番 山下寧音議員。



○英心高等学校

【20番 永田媛仁議員、21番 鈴木菜々実議員、22番 山下寧音議員】

英心高等学校です。子育て支援について、御質問します。今年の合計特殊出生率の発表が6月上旬にあり、昨年の結果は、過去最低を記録する1.20となりました。東京では、1を切ってしまったと一緒に報道されていました。三重県では、令和4年のデータは、1.40と発表されていました。伊勢市では、平成29年のデータとなりますが、1.34となっています。いずれも日本全体の値よりは高いものの、年々減少傾向にあり、少子化がどん

どん進んできています。また、核家族化が進み、子育ての負担が重くなっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、子育て世帯は経済的にも精神的にも大きな負担を強いられています。

この状況下において、子供が安心して生まれ育ち、健やかに成長できる環境を整えることは、社会全体にとって重要な課題です。伊勢市においては、これまで様々な子育て支援策を講じられてきました。しかし、依然として解決すべき課題も多く残されている状況なのかなと思います。

子育てには、教育費や医療費など、様々な費用がかかります。近年、これらの費用は上昇傾向にあり、子育て世帯の経済的な負担が重くなっています。子育て費用を軽減するためには、保育料の無償化や低額化、教育費の補助、医療費の負担軽減についてどのような取組を考えていますか。これが1つ目の質問です。

2つ目の質問です。伊勢市のリソース・強みを活かした伊勢市ならではの子育て支援策は考えておられますか。市外からの移住にもつながると思います。

3つ目は、私たちなりの提案について御意見を頂戴できればと思います。子育て世代は、金銭的な補助も必要かと思いますが、現在共働きをしないと生活が苦しい家庭もあるかと思いますが。そうすると、子育ての時間の確保が難しくなるのも問題になってくるかと思いますが。そこで、子育てのサブスクとして、ベビーシッターの利用や夜ご飯配達サービスなど、サブスクリプション形式での子育て支援サービスを提供することができたら、子育て世代をサポートできるだけでなく、雇用の面でも増やすことができるため、経済面でもいい影響を与えられるのではないかなと思います。子供も親も安心して健やかに成長できる環境を整えることは、伊勢市の未来にとって非常に重要です。伊勢市の代表として選ばれている市議会の皆さんで、子育て支援策の充実に向けて積極的に取り組んでいただきたく存じます。

以上の子育て費用の質問について、伊勢市ならではの支援策についての御回答と子育てのサブスクの提案に対しての御意見、お考えをお聞かせいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

教育民生委員会、宮崎委員長。



●宮崎誠教育民生委員会委員長

英心高等学校の皆さん、子育て支援について御質問並びに御提案いただきありがとうございます。まず、1つ目の御質問、本市における子育てにかかる経済的負担軽減の取組についてをお答えします。保育料につきましては、令和元年10月から3歳児から5歳児まで無償化となっております。また、第1子が5歳児までの場合に、ゼロ歳児から2歳児までの第2子以降のきょうだい利用やひとり親家庭の場合については、保育料を軽減しているところです。ゼロ歳児から2歳児の保育料の無償化については、財政的負担が大きいことから、他自治体の実施状況を注視しつつ、引き続き検討していく必要があると考えます。

教育費の補助につきましては、経済的な理由によって就学が困難な児童生徒には、学用品費、通学用品費、校外活動費、給食費などの費用について、義務教育を円滑に受けられるよう就学援助制度があり、また、経済的な理由によって修学が困難な学生などには、返済が必要ない給付型奨学金を支給しております。引き続き対象となる児童生徒が漏れなく就学援助制度を受けられるよう、SNSなども活用して制度を周知するとともに、奨学金の原資となる寄附金の募集など、必要な支援施策につながるよう取り組んでまいります。

医療費の負担軽減につきましては、中学校を卒業する15歳に到達する年度末までの医療費を助成しております。前年所得が多い場合には、助成の対象外となっておりますが、本年9月分の医療費からは、所得制限を撤廃いたします。さらに、医療機関の窓口で一旦医療費を支払い、後日助成する償還払い方式から医療機関の窓口負担を無くす現物給付方式に変更いたします。県内では、18歳まで対象としている自治体もあり、引き続き動向を注視し、検討していく必要があると考えております。

2つ目の御質問、市のリソース・強味を活かした伊勢市ならではの子育て支援案についてですが、多子世帯向け支援の親子3人乗り自転車のレンタル、祖父母などを対象にしたチャイルドシートの一時的レンタル、低所得世帯の子供の学びを支援する学習塾代の助成、大学等の受験や模擬試験の費用助成など、県内でも先駆けとなる特色ある子育て支援施策を行っております。現在、子供・若者向けのアンケートにより、幅広く意見を頂戴しており、伊勢市のリソースや強みを活かした子育て支援施策に反映していきたいと考えております。これらの充実した子育て支援施策や子育てしやすい環境をしっかりとPRし、魅力のある選ばれるまちとして、市外からの移住につなげてまいりたいと考えております。

最後に、3つ目の御質問、サブスクリプション形式、いわゆるサブスクでの子育て支援サービスの提供について、御提案をいただきましてありがとうございます。行政におけるサブスクについては、新しい子育て支援サービスの提供形態であり、他自治体では保育所で紙おむつ、また、おしりふきの定額サービスを導入している事例がございます。また、本市では2つ目の御質問でも御紹介させていただきました、多子世帯向け支援の親子3人乗り自転車のレンタル事業が定額で利用できるものとなっております。サブスクでの子育て支援サービスは、導入により利用料金が一定となり、定期的な支援が受けられますが、供給する子育て支援サービスの量やその需要、サービスの料金設定などを考慮する必要があります。また、子育て世代をサポートできる環境整備をはじめ、財源確保も課題となることから、先進事例を研究し、より良い子育て支援につなげてまいりたいと考えております。

今後子育てしやすいまちづくりを目指し、皆さんのような若い世代の声も聴きながら、しっかりと取り組んでまいりますので、御協力いただきますようお願いいたします。

以上で英心高等学校の皆さんへの答弁とさせていただきます。本日はありがとうございました。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長
英心高等学校。

○英心高等学校

【20番 永田媛仁議員、21番 鈴木菜々実議員、22番 山下寧音議員】

御回答ありがとうございます。日本は少子化が進み、人口も毎年減少しています。子育てがネガティブなものではなく、ポジティブなものに変化させるのが、少子化問題を解決するために一番変えなければいけないことだと思います。伊勢市から日本の未来がより明るくなることを期待しております。本日はありがとうございました。

明野高等学校

【伊勢市内の高校との取組・PRについて】

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

次に、明野高等学校、1番 曾我裕眞議員、2番 太田美唯菜議員、3番 森下愛華議員。



○明野高等学校

【1番 曾我裕眞議員、2番 太田美唯菜議員、3番 森下愛華議員】

明野高校です。よろしくお願ひします。私たちがお伺ひしたいことは、地元の高校生のPRについてです。私たち明野高等学校は、生産科学科、食品科学科、生活教養科、福祉科の特色ある4学科を持つ高校です。特に農業科では豚、お米、お茶の3分野で東海地区の初のGAPを取得し、様々なPR活動を行っています。

この場では、明野高校のブランド豚「伊勢あかりのぼーく」を例に取り上げます。この「伊勢あかりのぼーく」を利用して、肉みそを作り、東京のアンテナショップや地域のイベントなどで販売をしています。また、GAPの取得が必須である東京2020大会へ

の食材提供を行ったほか、第11回イオンeco-1グランプリで最高賞にあたる内閣総理大臣賞を受賞し、これまで明野高校の畜産部門での生徒と担当教員が真剣に取り組んできたプロジェクトで、初めて日本一の称号を獲得しました。また、去年行われたG7伊勢志摩交通大臣会合の立食パーティーにおいて「伊勢あかりのぼーく」を食材提供し、高校生の頑張っている姿を世界に向けてPRしました。

そこで質問ですが、伊勢市では地元の高校の知名度を上げる活動は行われていますでしょうか。また、私たち高校生にできることはありますか。私たちも宣伝活動について、特にこれからの社会を担う若い世代向けに考えてみました。例えば、市内の高校とコラボして動画製作やSNSを利用した宣伝活動はいかがでしょうか。学校紹介動画を作成したり、市内の高校1つ1つとコラボすると中学生や県外の方にも興味を持ってもらえるのではないかと思います。御検討のほど、よろしくお願いいたします。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

総務政策委員会、川口副委員長。



●川口浩総務政策委員会副委員長

明野高校の皆さん、御質問をいただき、ありがとうございます。明野高校におかれましては、専門的な知識や技能を習得するとともに、農業や衣食、福祉の分野において、地域連携を推進されており、非常に素晴らしい取組であると考えております。また、市内の他の高校におかれましても、それぞれの学校の特色を生かした様々な取組が行われているところであり、地域課題の解決や地域に活力を与える大変重要な取組であると認識しております。

市としましては、これらの取組が広く市民に認知され、取組への関心、賛同、協力を得ることで、更なる発展に繋がることを期待しております。各高校における取組について、把握をしながら、情報発信などにおいて連携するよう努めております。例えば明野高校の取組につきましても、先ほど述べられたG7伊勢志摩交通大臣会合での食材提供について、国・県との仲介役を担わせていただきました。その他にも、ふるさと納税の返礼品としてのPRや、万博首長連合における万博弁当への食材提供、知事との対話の機会創出など、様々な機会を捉えて発信してきたところです。

今回、宣伝活動についての御提案もいただきました。これについては、どのような目的で、誰に、何を、どのような手法で伝えようとするのか、具体的に詳細にわたる意見交

換などを市当局を交えて、させていただければと考えます。また、情報発信に限らず、高校としての取組を進めるうえで、市としても様々な連携・協力ができる可能性があります。新たな取組を開始される場合、また、このようなことができればといったアイデアを検討している段階でも構いませんので、お声をかけていただけますと幸いです。

今後も各高校との連携をより一層深め、共に伊勢市を盛り上げていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして、明野高校への答弁とさせていただきます。ありがとうございます。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

明野高等学校。

○明野高等学校

【1番 曾我裕眞議員、2番 太田美唯菜議員、3番 森下愛華議員】

ありがとうございます。宣伝活動のことについては、明野高校や他の高校の後輩たちが今後していく活動について、若者がよく使うT i k T o kやI n s t a g r a mなどのSNSで宣伝を伊勢市の方にさせていただくことで、より高校生がどのようなことに取り組んでくれているのか、他の高校生や地域の方に伝わると高校生たちも地域の方との交流が生まれると思われました。また、明野高校で新たな取組を開始する際には、意見交換の場を設けてもらえると嬉しいです。

伊勢高等学校

【南海トラフ地震の対応について】

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

次に、伊勢高等学校、13番 中村旭輝議員、14番 宮崎湊士議員。



○伊勢高等学校

【13番 中村旭輝議員、14番 宮崎湊士議員】

まず、私たち高校生に伊勢市の議会の質疑応答に参加する貴重な機会を提供していただき、心から感謝しております。私達は、南海トラフ地震の対応について質問させていただきます。昨年5月に、新型コロナウイルスが2類から5類に移行されたことで人が集ま

る行事が盛んに行われるようになりました。そのような流れの中、各地域で実施される避難訓練はコロナ禍以前の頻度まで回復していません。避難に補助を必要とする高齢者の確認や地域間での連携を円滑に進めるためにも、地域ごとに避難訓練の回数を重ねることが必要だと考えました。また、各地域で避難訓練をすることで、実際に目視で避難経路の安全性を確認し、避難に要する時間の把握ができると思います。そこで、何故、避難訓練の実施回数は増加に転じないのか。また、市民の防災意識を高める取組を検討されているのであれば、その内容について教えていただきたいです。こちらの方でも防災意識を高める取組について考えてきたので、参考にさせていただければ幸いです。

1つ目は、兵庫県で行われているドローンによる物資輸送の活用です。ドローンは人の代わりに危険な場所に入って調査や物資輸送などができるため、救援者の二次災害やリスク低減につながります。ヘリコプターでは探せないような場所でも調査をすることができます。また、現時点で津波の被害に遭うことがないような内陸部に住んでおり、地震発生後に孤立、もしくは、足腰が弱いなどの理由で、自力で避難をすることが難しいような人にも物資を送ることが可能です。

2つ目は滋賀県で行われている F a c e b o o k を利用した防災に関する情報提供です。インターネットによる幅広い情報伝達が可能になるので避難訓練の予告など、防災に関する伝達を若い世代にも行うことができると思われます。また、意見交換会のようなものを F a c e b o o k 上で実施することができるので、参加者が一斉に会場に集まって意見を交換する必要がなくなり、会場を借りるお金を節約でき、参加者が会場に行く労をとる必要がなくなるため、防災活動に気軽に参加しやすくなると思われます。また、疑問に思ったことをすぐに聞くことができるので、意見交換会が実施されるときなどに内容を忘れてしまい質問できなくなることが少なくなります。

南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。今後 30 年以内に、発生する確率は、およそ 70~80%だと言われており、まさに、今ここで発生していてもおかしくはないはずです。少しでも早くの段階から災害が発生した際に備えて、市民の対応力を高める必要があると私達は考えます。そのため、伊勢市の議会の方で、市民の先導をするような政策を講じていただきたいと思えます。以上です。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長
総務政策委員会、辻委員長。



● 辻孝記総務政策委員会委員長

それでは、伊勢高等学校の中村旭輝議員、宮崎湊士議員の御質問にお答えをさせていただきます。この度は、南海トラフ地震への対応に関する御質問、御意見をいただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスは人と人とのつながりを分断するウイルスであったと考えております。御指摘のとおり、感染の拡大に伴い、地域で実施される避難訓練などの行事は、軒並み中止や規模の縮小を余儀なくされておりました。

伊勢市では防災マネージャー、防災アドバイザーの2名の防災専門職員を配置し、地域の防災意識を高める様々な取組に対し、継続的に支援を行ってききましたが、その活動についても思うように進められない状況が続きました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、一年が経過したことにより、各地域における防災の取組も徐々に活発になってきております。しかし、まだまだ再構築の段階にあると考えています。伊勢市では、市内の23地区にあるまちづくり協議会に出向き、避難訓練や防災講習の再開を依頼し、訓練の企画段階から関わり、コロナ禍以前の訓練数及び参加者数を目標に取組を行っております。議会としましても、様々な取組を通し、市民の皆さんの防災知識の向上、防災意識の高揚につとめていきたいと考えています。

次に、災害時のドローンの活用についてですが、御紹介いただきましたとおり、近年災害時のドローン活用が広がりを見せています。伊勢市におきましても、消防本部がドローンを導入し、要救助者の捜索などで活用を始めております。御紹介いただきました物資の輸送につきましては、飛行に関しての規制など、クリアしなければならないことが多いため、今、三重県などと情報共有しながら取り組んでまいります。

F a c e b o o k など、SNSの活用につきましては、御紹介いただきましたとおり、様々な社会課題を解決する手段として各分野での活用が広まっております。伊勢市においては、LINEの活用を進めており、災害時に被害情報を通報するなどの機能の運用を開始しております。皆様におかれましても、ぜひお友達登録をしていただき、万が一、身近な所で被害を目にした場合には、通報に御協力をいただきたいと思います。御提案いただきましたF a c e b o o kの機能の活用につきましても、研究をしていきたいと考えております。

伊勢市では、能登半島地震の発災翌日の1月2日には、被災地支援のため職員派遣を開始し、5月末には延べ100人を超える職員を派遣し、支援を行いました。被災自治体への支援活動は、直接的に被災地域の方々の暮らしを支える活動であるとともに、職員の災害対応力の向上にもつながるものと考えております。被災地での支援活動を通じて、得られた知見を南海トラフ地震など今後災害が発生した際に活かすとともに、市民の皆様にお伝えし、行政、議会そして市民の皆様と共に対処力を高めていきたいと考えております。また、能登半島地震の被災地においては、様々な新しい技術やツールが活用され、そのことにより、新たな知見も蓄積されたと考えております。情報収集を怠ることなく、災害対策に活かしていきたいと考えております。今後とも新しい情報がありましたら、身近な議員や行政へ御紹介いただけたら幸いです。この度は、貴重な情報を御紹介いただき、ありがとうございました。

以上で、伊勢高等学校、中村旭輝議員、宮崎湊士議員の御質問にお答えさせていただきました。どうもありがとうございました。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長
伊勢高等学校。

○伊勢高等学校

【13番 中村旭輝議員、14番 宮崎湊士議員】

御答弁ありがとうございました。避難訓練以外の市民の防災意識を高める取組がすでに行われているということを知ることができて良かったです。また、Facebookではなく、LINEの方で減災のための取組も実践されているとのことですが、まだ認知度が高まっていないと感じられるので、広報のほうでもそのような取組をこれからも広めていただきたいと思いました。今日は、貴重な体験をさせていただき誠にありがとうございました。

◎伊勢学園高等学校大田帆乃夏議長

以上をもちまして、市政に対する質問を終わります。
それでは、議長席を交代します。

◎野崎隆太広報広聴検討分科会委員

それでは、広報広聴検討分科会の上村和生会長から感想を申し上げます。

上村会長の感想



○上村和生広報広聴検討分科会会長

今日は、貴重な夏休みにも関わらず、高校生議会に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、質問、議長役と、大変長時間お疲れさまでした。今回は市内の高校、9校全ての参加もいただきました。各学校の校長先生をはじめ、学校関係者の皆様、それと本日参加の高校生の皆様の御協力の賜物と感謝申し上げます。ありがとうございました。

感想とのことでありましても、皇學館高校からは、「観光客の増加に対応する危機管理のあり方について」、また、伊勢学園高校からは、「ICT教育について」、宇治山田商業高校からは、「伊勢市の交通渋滞対策・駐車場の拡大について」、伊勢まなび高校から

は、「交通不便地域における登下校時の公共交通対策について」、宇治山田高校からは、「市政に対する市民の意見の反映について」、伊勢工業高校からは、「わくわくする伝統ある伊勢市について」、英心高校からは、「子育て支援について」、明野高校からは、「伊勢市内の高校との取組・PRについて」、伊勢高校からは、「南海トラフ地震の対応について」、それぞれ様々な視点から、私たちでは気づけないような御意見もいただきました。私たち議員にとっても大変貴重な機会となったことでもあります。ただいま、いただいた御意見につきましては、市政に反映できるよう、今後努力してまいりたいというふうに思います。

皆さん、本日は大変緊張しておられたかと思えますけれども、堂々と質問されている姿を見させていただきました。皆さんの本日の行動を見せていただき、伊勢市の将来は安泰だな、また将来、伊勢市議会議員になっていっていただける方がこの中から出ていただければいいのになど、そんなことを思って聞かさせていただいておりました。

本日の経験を活かして、様々な分野で今後御活躍されることを祈念申し上げまして、私からの感想とさせていただきます。皆さん、大変お疲れさまでした。どうもありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

◎野崎隆太広報広聴検討分科会委員

会長、ありがとうございました。

最後に、岡田善行副議長から御挨拶申し上げます。

副議長あいさつ



○岡田善行副議長

高校生議員の皆様、お疲れさまでした。本日は、高校生の皆様から、伊勢市に対する思いを高校生ならではの視点から聞かせていただく大変貴重な機会となりました。議長役2名の議事進行をはじめ、質問をいただいた各高校の皆様も大変緊張されたことと思いますが、立派に務められましたことを、大変素晴らしく感じたところでございます。

今回の経験を通じて、市議会ならびに市政への関心を高めていただいたかと思えます。この中から、将来市議会議員に立候補していただく方が出ると大変うれしいと思っております。私たち議員も高校生の皆様のような若い視点も取り入れ、議会での議論をさらに進めていきたいと考えております。今後もこのような意見交換の場を幅広く持たせていただきたいと考えておりますので、引き続き、伊勢市議会の活動に御理解、御協力を賜ります

よう、心からお願い申し上げます。

最後になりますが、開催にあたり、御尽力をいただきました、各高等学校の関係者の皆様方、引率の先生方、そして傍聴にお越しいただきました皆様にお礼を申し上げまして、私からのあいさつとさせていただきます。本日は、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

◎野崎隆太広報広聴検討分科会委員

副議長、ありがとうございました。

以上で、本日の議事内容は終了いたしました。

これをもちまして、伊勢市高校生議会を閉会いたします。

御参加いただきました皆様方、ありがとうございました。

閉会 午後4時10分